

文学部教員研究活動一覧

(2020年度)

石田 友梨

月、23-24頁

論文

1. (共著) 馬艶艶・石田友梨「日本の古典としての漢詩の特徴：日中の教科書に採録されている漢詩の分析より」『じんもんこん2020論文集』、2020年12月、261-268頁

研究発表

1. 「現代イスラーム社会におけるAIの位置づけ」日本宗教学会第79回学術大会、2020年9月19日、オンライン
2. 「イスラーム神秘主義の靈魂論とDigital Humanities」岡山大学第9回サイバーフィジカル情報応用研究コア (Cypher) 研究会、2021年2月24日、オンライン
3. 石田友梨・篠田知暁「アラビア語用OCRの現状と実践」イスラーム信頼学ワークショップ (C01「デジタル・ヒューマニティーズ」・A01「イスラーム経済のモビリティと普遍性」)、2021年3月19日、オンライン

その他 (翻訳、事典項目、書評等)

1. 「人文情報学教育を掲げる卓越大学院プログラム」『人文情報学月報』第107号、2020年6月、<https://w.bme.jp/bm/p/bn/htmlpreview.php?i=dhm&no=all&m=21&h=true>
2. 「現代イスラーム社会におけるAIの位置づけ」『宗教研究』第94巻別冊、2021年3

岡本 源太

論文

1. 「ジョン・トーランドによる汎神論の発明——ジョルダノー・ブルーノの哲学の継承」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』第51号、2021年3月、1-14頁

研究発表

1. 「ルネサンスの宗教論と多様性の問題——ピーコ・デッラ・ミランドラからジョルダノー・ブルーノまで」、日本倫理学会第71回大会主題別討議「イタリア思想の再検討」、オンライン、2020年10月3日
2. 「ジョルダノー・ブルーノにおける想像力と真理——複数世界論との関係から」、「詩学的虚構論と複数世界論の交叉の系譜的研究」第5回研究集会、オンライン、2021年3月21日

その他 (翻訳、事典項目、書評等)

1. [新刊紹介] “Viko Jambattisuta, Atarashii gaku no sho genri [Principj di una scienza nuova, 1725], tr. intr. e note di T. Uemura, Kyoto, Kyoto Daigaku Gakujutsu Shuppankai [Kyoto U. P.], 2018, pp.578,” *Bolletino del Centro di Studi Vichiani*, anno L, 2020, p. 561.
2. [解説] 「ダミッシュ」 「ディディ = ユベ

- ルマン」、川口茂雄、越門勝彦、三宅岳史編『現代フランス哲学入門』、ミネルヴァ書房、2020年、336、348頁
3. [書評]「上村忠男『アガンベン《ホモ・サケル》の思想』(講談社、2020年)」、『週刊読書人』第3352号、2020年8月14日
 4. [新刊紹介]「ユベール・ダミッシュ『カドミウム・イエローの窓——あるいは絵画の下層』(岡本源太、桑田光平、坂口周輔、陶山大一郎、松浦寿夫、横山由季子訳、水声社、2019年)」、『REPRE——表象文化論学会ニューズレター』第39号、2020年
 5. [翻訳] ジョルダノ・ブルーノ『しるしのしるし』(第一部第三五～五〇節)岡本源太訳、『多様体』第3号、月曜社、2020年、123-141頁(解題124-126頁)

栗林 裕

著書

1. 『トルコ語とチュルク諸語の研究と日本語との対照』日中言語文化出版社、2020年6月、184頁

研究発表

1. Japonya'da Türk Dilleri Çalışmaları ve Türkler (日本におけるチュルク諸語研究とトルコ人). Çukurova Üniversitesi Türkoloji Araştırmaları Merkezi Kültür Evi Etkinlikleri. (Adana: Online Talk, Invited Speaker 令和2年8月12日) 2020 [招聘]
2. Çeşitli Ülkelerde Türkçe Öğretimi: Japonya (様々な国におけるトルコ語教育: 日本). 4th International Symposium of Limitless Education and Research (ISLER 2020) (Ankara: Online

Conference Keynote Speaker 令和2年9月4日)2020 [招聘]

3. 「チュルク諸語のol-/bol-補助動詞の数量的比較 —トルコ語、ウズベク語、アゼルバイジャン語の翻訳テキストから—」第4回AA研チュルク諸語研究会 (Online Talk 令和3年3月7日) 2021.
 4. 「チュルク諸語の事態把握表現の数量的比較に向けての試論」2020年度ユーラシア言語研究コンソーシアム年次総会「ユーラシア言語研究 最新の報告」(Online Conference 令和3年3月20日) 2021.
 5. 「トルコ語の主題化と数量詞遊離の言語類型論」大阪府立大学 張麟声ゼミ (Online, Invited Talk 令和3年3月26日) 2021.
- その他 (翻訳、事典項目、書評等)

1. 「Japonya'da Türkçe Eğitimi ve Öğretimi」VİZYON 58 CANLI YAYIN EKONOMİ POLİTİKA トルコ・政治経済TV番組出演「日本におけるトルコ語教育」2021年1月28日 17:00-18:00

齋藤 圭介

論文

1. 「男性の生殖経験とは何か——育児に積極的にかかわっている男性へのインタビュー調査から」、『年報社会学論集』(33)、2020年8月、157-168頁

研究発表

1. 「『社会学評論』は高嶺の花か? ——査読誌に投稿する執筆者の属性とその趨勢」、日本社会学会、2020年10月、オンライン
2. 「(シンポジウム) 社会学への冷笑と羨望——隣接分野からのまなざし」、日本社会学会、2020年11月、オンライン

3. 「査読誌に論文を掲載するためには何が
必要か」、関東社会学会、2020年12月、
オンライン
4. 「(研究例会)理論という実践——ジェン
ダー理論は社会正義を語れるか」、関東
社会学会、2021年3月、オンライン
その他(翻訳、事典項目、書評等)
1. 「学生にとって、社会調査の魅力とは何
か」、日本原子力学会誌『アトモス』62(5)、
2020年5月、48頁
2. 「質問紙調査の魅力と落とし穴」、日本原
子力学会誌『アトモス』62(7)、2020年7
月、41頁
3. 「社会調査とプライバシーの微妙なバラ
ンス」、日本原子力学会誌『アトモス』62
(10)、2020年10月、66頁
4. 「理論という実践——ジェンダー理論は
社会正義を語れるか」、『関東社会学会
ニュース研究例会(企画趣旨文)』156、
2021年2月

鈴木真太郎

著書

1. 鈴木真太郎『古代マヤ文明—栄華と衰亡
の3000年』中公新書/中央公論新社、2020
年12月、304頁
2. Tsubasa Okoshi, Arlen F. Chase,
Philippe Nondédéo, M. Charlotte
Arnauld (edit.) *Maya Kingship: Rupture
and Transformation from Classic to
Postclassic Times*, University Press
of Florida, 2020年12月、449頁 ([Suzuki
Shintaro](#) & Izquierdo Ana Luiza.
Reconstructing an Ancient State from
Its Bones, People, and Households. A
Bioarchaeological Perspective on Late
Classic Copán, Honduras. pp. 153-166
3. 伊藤伸幸監修 嘉幡茂&村上達也編 『古
代メソアメリカ文明ゼミナール』、2020
年12月、510頁 ([鈴木真太郎](#)、「形質人類
学」355-372頁
4. 伊藤伸幸監修 嘉幡茂&村上達也編 『古
代メソアメリカ文明ゼミナール』、2020
年12月、510頁 ([鈴木真太郎](#)、「DNA分析」
377-379頁

論文

1. (共著) 飯塚義之、[鈴木真太郎](#)、バリエ
ントス・トマス「完全非破壊化学分析法
による古代マヤ文明の磨製石器石材分
析」、『古代アメリカ』23号、2020年12月、
29-50頁
2. [Suzuki Shintaro](#), Nakamura Seiichi &
Price T. Douglas. Isotopic Proveniencing
at Classic Copan and in the Southern
Periphery of the Maya Area: A New
Perspective on Multi-Ethnic Society.
Journal of Anthropological Archaeology,
Published online (DOI: 10.1016/
j.jaa.2020.101228), Sept. 2020.
3. Barrientos Tomás, Sandoval Andrea,
Iizuka Yoshiyuki, [Suzuki Shintaro](#)
& Pablo Estrada. Más allá del jade
y la pirita: Diversidad de materias
primas minerales utilizadas en la
época Prehispánica. *XXXIII Simposio
de Investigaciones Arqueológicas en
Guatemala 2019*, pp. 1021-1036, Jul. 2020.
その他(翻訳、事典項目、書評等)
1. 書評 青山和夫ほか著 『古代アメリカ
の比較文化論—メソアメリカとアンデス
の過去から現代まで—』、『考古学研究』
67-1、2020年6月、100-102頁

清家 章

著書

1. 清家章編『磯間岩陰遺跡の研究』田辺市教育委員会・科学研究費磯間岩陰遺跡研究班、和歌山・岡山、2021年3月、総397頁（考古報告編担当頁：pp. 10-16、pp. 19-51、pp. 55-59、p. 132、pp. 157-163 考察編担当は別記）

論文

1. 「磯間岩陰遺跡の非畿内性と広域性」清家章編『磯間岩陰遺跡の研究』分析・考察編 田辺市教育委員会・科学研究費磯間岩陰遺跡研究班、和歌山・岡山、2021年3月：pp. 221-234(査読無)
2. 安達登・神澤秀明・藤井元人・清家章「磯間岩陰遺跡出土人骨のDNA分析」清家章編『磯間岩陰遺跡の研究』田辺市教育委員会・科学研究費磯間岩陰遺跡研究班、和歌山・岡山、2021年3月：pp. 105-118(査読無)
3. 清家章・坂本稔・瀧上舞「岡山県倉敷市中津貝塚出土縄文人骨の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第228集 国立歴史民俗博物館、千葉 2021年3月：pp. 341-344(査読有り)
4. 清家章・坂本稔・瀧上舞「岡山県内古墳出土人骨の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第228集 国立歴史民俗博物館、千葉 2021年3月：pp. 345-359(査読有り)
5. 篠田謙一・神澤秀明・角田恒雄・安達登・清家章「大阪府堺市野々井二本木山古墳出土人骨のミトコンドリアDNA分析」『国立歴史民俗博物館研究報告』第228号 2021年3月：pp. 287-294(査読有り)
6. 清家章・坂本稔・瀧上舞「香川県高松市

高松茶臼山古墳第I主体部E地区出土人骨の年代学的調査」『国立歴史民俗博物館研究報告』第228集 国立歴史民俗博物館、千葉 2021年3月：pp. 361-367(査読有り)

7. 篠田謙一・神澤秀明・角田恒雄・安達登・清家章・李在煥・朴天秀「韓国高靈池山洞44号墳出土人骨のミトコンドリアDNA分析」『国立歴史民俗博物館研究報告』第228号 2021年3月：pp. 465-471(査読有り)
8. 『下里古墳からわかること』那智勝浦町文化協会創立20周年記念文化講演会記念誌 那智勝浦町文化協会 2020年10月：pp. 1-23(査読無)
9. 「和歌山県磯間岩陰遺跡にみる交流とその意義」『紀伊考古学研究』紀伊考古学研究会、和歌山 2020年8月 pp. 1-10(査読無)

その他（翻訳、事典項目、書評等）

1. 清家章2020年11月「遺跡めぐり：熊本県向野田古墳」『Yaponesian』第2巻あき号 新学術研究領域ヤポネシアゲノム領域事務局、静岡：p. 9

竹島あゆみ

論文

1. Takeshima, Ayumi. The Reception and Translation of Hegel in Japan. *Verifiche*, 49, 2020, pp. 147-158
 2. 「承認論の現在」、『岡山大学文学部紀要』73号、2020年12月、1-12頁
- その他（翻訳、事典項目、書評等）
1. (書評) 承認論から具体倫理学へ（ルードヴィヒ・ギープ『ギープの承認論』）、図書新聞、2020年5月、3頁

田中 共子

論文

1. 趙師哲・田中共子 2021.3 「中国籍高度外国人材にみられる文化変容方略と幸福感および異文化ストレス」『愛知淑徳大学紀要』5, 31-42.
2. Tanaka, T. & Hyodo, Y. 2021.1 “Eating Gaps” and Cross-cultural Adaptation among Foreign Visitors: Implications Regarding Cross-cultural Dietary Education for International Students in Japan. *Japanese Journal of Health Psychology*, 33, 211-223.
3. Tanaka, T. 2021.1 Cross-cultural Contact and Health in Asia. *Japanese Journal of Health Psychology*, 33, 225-239.
4. 迫こゆり・田中共子, 2021.1「在ブラジル日本人における日系ブラジル人との両面的関係性—異文化適応の支援源とストレス源—」*Japanese Journal of Health Psychology*, 33, 249-258.
5. 畠中香織・山本恵美子・田中共子 2021.1「外国人ケア労働者と関わる高齢者の精神的健康, 生きがい感, 主観的健康感—異文化間ケアは高齢者のサクセスフル・エイジングを高めるか—」*Japanese Journal of Health Psychology*, 33, 241-248.
6. 左婉馨・兵藤好美・田中共子・五福明夫 2021. 3 「看護場面における確認不足を引き起こす要因の認識に関する検討」『統合科学』1, 29-46.
7. Sozen, A. I., Tanaka, T. and Nakano, S. 2020.12 Cross-Cultural Social Skills of Turkish Students in Japan: Implications for Overcoming Academic and Social Difficulties During Cross-Cultural Transition. *IAFOR Journal of Psychology & the Behavioral Sciences*, 6 (1), 15-41.
8. 趙師哲・田中共子 2020. 12 「在日中国人の文化変容方略に関する探索的研究—留学後に高度外国人材となった9人における二文化への態度—」『多文化関係学』17, 3-19.
9. 趙師哲・田中共子 2020.11 「中国系異文化滞在者の文化変容方略とメンタルヘルス—1990年代以降の欧米・日本・香港の研究から—」『日本華僑華人研究』17, 55-67.
10. Okunishi, Y. & Tanaka, T., 2020.7 Re-acculturation of Chinese Returnees who Experienced Overseas Studies in Japan. *Japanese Journal of Applied Psychology*, 46, 11-18.
11. Zhao, S. and Tanaka, T. 2020.5 Chinese Permanent Residents in Japan: A Qualitative Study on Acculturation Strategies and Mental Health. *The Asian Conference on Psychology & the Behavioral Sciences 2020 Official Conference Proceedings*, 89-106.

研究発表

1. 中野祥子・田中共子 2020.10.24-25 混住寮における対人関係形成に関する縦断的研究—留学生居住者の事例— 日本質的心理学会第17回大会(オンライン)
2. 高濱愛・田中共子 2020.9.18-19 アメリカンソーシャルスキルのオンライン学習—「謝罪する」スキルを使った試行— 第25回留学生教育学会年次大会(オンライン)

3. 兵藤好美・田中共子 2020.11.22-23 情報伝達のゲーミングシミュレーションによる医療安全教育の試み：バリエーションを加えた伝言ゲームの活用 第15回医療の質・安全学会学術集会(オンライン)
4. 趙師哲・田中共子 2020.10.24 在日中国人の文化変容方略にみられる葛藤およびスイッチングとの関連 多文化関係学会第19回年次大会(オンライン)
5. 田中共子 2020.11.16-22 国際委員会企画シンポジウム 現代日本社会におけるウェルビーイングとメンタルヘルスに関する研究—指定討論 日本健康心理学会第33回大会(オンライン)
6. 田中共子 2020.11.16-22 理事長講演：新生活様式と健康心理学 日本健康心理学会第33回大会(オンライン)
7. 田中共子 2020.11.16-22 広報委員会・新型コロナウイルス感染症対策検討ワーキンググループ企画シンポジウム 新型コロナウイルス感染症への対策に関する情報提供—健康心理学からのアプローチ—情報の浸透をはかり可能性を拓く教育実践の試み 日本健康心理学会第33回大会(オンライン)
8. 山野洋一・畠中香織・野々口陽子・水川夏菜子・野中美幸・田中共子 2020.11.16-22 禁煙支援における健康心理学的査定法の信頼性・妥当性の検討—日本語版意思決定バランス尺度・禁煙自己効力感尺度の再検査信頼性、ニコチン依存度との関連の検討— 日本健康心理学会第33回大会(オンライン)
9. 兵藤好美・Zuo Wanxin・田中共子 2020.11.16-22 確認不足によるエラーに焦点を当てた医療安全のためのゲーミングシミュレーション 日本健康心理学会第33回大会(オンライン)
10. 趙師哲・田中共子 2020.11.14-15 在住の「新華人」における文化変容方略と適応に関する事例的研究 2020年度日本華僑華人学会研究大会第2回サーキュラー(山口大学吉田キャンパス)
11. 田中共子 2020.6.13-14 在留外国人を対象とした社会生活スキル学習としてのごみ分別ゲーム 異文化間教育学会第41回大会(オンライン)
12. 趙師哲・田中共子 2020.6.13-14 日本における中国人長期滞在者の文化変容方略とメンタルヘルス—4類型の人数および幸福・うつとの関係に関する初期的検討— 異文化間教育学会第41回大会(オンライン)

土口 史記

著書

1. 初山明、ロータール・フォン・ファルケンハウゼン編『秦帝国の誕生』六一書房、2020年12月、207頁(土口史記「秦史の全体像復元のために」137-142頁)
2. 徐少華、谷口満、羅泰主編『楚文化与長江中游早期開發國際學術研討會論文集』武漢大学出版社、2021年2月、657頁(土口史記「秦代地方支配途徑再探」386-395頁)

論文

1. 「秦漢の録とその周辺」、『中国文史論叢』第17号、2021年3月、1-23頁

研究発表

1. 「秦漢帝国と東アジア情勢—近年の発見と研究」赤穂市立図書館「歴史と文学の講

- 座)、2020年12月5日、赤穂市立図書館
2. 「秦漢簡牘における「録」」アジア史連絡会第7回研究会、2020年12月13日、オンライン
 3. 「「篇題木牘」の一考察—簡牘素材論の視点から」国際シンポジウム「漢籍と中国史」、2021年3月8日、オンライン
 4. 「篇題木牘試探:従簡牘素材論角度的考察」武漢大学簡帛研究中心等主催「第九届出土文献青年学者国際論壇」、2021年3月20日、オンライン

堤 良一

研究発表

1. 「「聞き手」としての非母語話者の容認性判断」、日本語プロフィシエンシー研究学会10周年記念シンポジウム、2021/6/26-6/27、オンライン(三井久美子(立命館大学)、立部文崇(徳山大学)、范一楠(環太平洋大学)、長谷川哲子(関西学院大学)、宇佐美まゆみ(国立国語研究所)、堤良一(岡山大学)・閻琳(立命館大学))

徳永 誓子

論文

1. 「中世の「牛祭」」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』51巻、2021年3月、19-39頁

研究発表

1. 「中世における巫女の呪具」、国際日本文化研究センター共同研究会「巫俗と占術の現在—東アジア世界の民俗信仰の伝播と展開」、2021年3月6日、オンライン

仲田 公輔

論文

1. 「9～11世紀におけるビザンツ帝国からアルメニアへの聖十字架断片の奉遷」、『西洋中世研究』12、2020年12月、111-127頁

研究発表

1. 「10世紀におけるアルメニア＝ビザンツ関係と聖人崇敬」、西洋史研究会大会、2020年11月21日、東北大学(オンライン開催)

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 「(書評) 小林功著『生まれくる文明と対峙すること』、ミネルヴァ書房、2020年1月、A5・372ページ」、『史学雑誌』130-2、2021年2月、85-97頁

中谷 文美

著書

1. Hiroki Ogasawara, Fumiko Sukikara, Gracia Imberton Deneke, Gatta Gianluca, Ayami Nakatani, et al. 『Materialism of Archive 記録のマテリアリズム —A Dialogue on Movement / Migration and Things Between Japanese and Mexican Researchers 移動／移民とモノをめぐる日墨研究者による対話—』Hiroki Ogasawara and Fumiko Sukikara eds, 神戸大学出版会、2021年3月

論文

1. 「カナダ・太平洋北西海岸部の先住民バスケタリー」ブリティッシュ・コロンビア州ヴィクトリアのLegacy Art Galleryの展示から」『バスケタリーニュース』第94号、2020年5月、10-13頁
2. 「バスケタリーに満ちた供物の世界」『月

刊みんぱく』第44巻第8号、2020年8月、14-15頁

3. 「女が住まいを飾るとき—手芸の『過剰性』をめぐって」上羽陽子・山崎明子編『現代手芸考』フィルムアート社、2020年9月、200-215頁
4. 石川裕子・中谷文美「独居の認知症高齢者が地域で暮らし続けるということ—福山市鞆町平地区を事例として」『老年人文研究』第2号、2021年3月、1-20頁
5. 金谷美和・上羽陽子・中谷文美 「道具としての植物利用(3)—インド北東部アッサム地域を中心に」『人類集団の拡散と定着にともなう文化・行動変化の文化人類学的モデル構築：パレオアジア文化史学 B01班 2020年度研究報告書』2021年3月、5-10頁

研究発表

1. 「コロナ禍で露呈したちがいの境界線の恣意性について」日本学術会議公開シンポジウム「With コロナの時代に考える人間のちがいと差別～人類学からの提言～」2020年10月11日、オンライン開催
2. 中谷文美・上羽陽子・山岡拓也・金谷美和・Rikzar Fuentes, 小野林太郎「植物資源の多面的利用—用途に適した素材特性の理解と文化的選好をめぐって」、パレオアジア文化史学第10回研究大会、2020年12月18日、オンライン開催
3. 小野林太郎・Rikzar Fuentes・中谷文美・金谷美和・上羽陽子「タケ仮説再考—ウォーレスシアにおける植物利用からみた石器の機能論」パレオアジア文化史学第10回研究大会、2020年12月18日、オンライン開催
4. 「バリのテキスタイル in パリコレ：Appropriation or CSI?」国立民族学博物館共同研究「伝統染織品の生産と消費—文化遺産化・観光化によるローカルな意味の変容をめぐって」第7回研究会、2021年1月24日、於：国立民族学博物館
5. 「オランダ社会における高齢者ケアと「迷惑」概念—方法論を中心に」基盤研究(A)「日本社会の「老い」をめぐる分野横断的研究—「迷惑」と「ジリツ」の観点から」全体研究会、2021年3月27日、オンライン開催

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 書評 Elite Malay Polygamy: Wives, Wealth and Woes in Malaysia. Koktvedgaard Zeitzen, Miriam. New York: Berghahn, 2018. 268p *American Ethnologist* ウェブ掲載、2020年8月4日
<https://doi.org/10.1111/amet.12946>.
2. コラム「手芸的なものにつき動かされる男子にとって、手芸とは何か?」上羽陽子・山崎明子編『現代手芸考』フィルムアート社、2020年9月、47-49頁
3. 書評 佐藤若葉『衣装と生きる女性たち—ミャオ族の物質文化と母娘関係』京都大学学術出版会、『東南アジア研究』58巻第1号、2021年1月、269-271頁
4. 書評 Hendrik Groen, *Pogingen iets van het leven te maken: Het geheime dagboek van Hendrik Groen* 他2冊、『老年人文研究』第2号、38-43頁

中東 靖恵

論文

1. 「海外日系移民社会における方言の継承と変容—パラグアイの広島県人家族におけるアクセントの実態—」『ことばの研

- 究』12号, 2020年5月, 9-24頁
2. 「岡山県総社市における多文化共生のまちづくりとしての地域日本語教育—「総社モデル」の構築と展開—」『ことばの研究』13号, 2021年3月, 60-69頁
 3. 「岡山県総社市におけるオンライン地域日本語教室の試み—地域日本語教育における新たな可能性の模索—」『文化共生学研究』20号, 2021年3月, 1-19頁
- 招待講演**
1. 「空白地域における日本語教室の立ち上げと展開—岡山県総社市における取組事例—」文化庁令和2年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業「空白地域解消推進協議会」基調講演, 2020年12月2日, オンライン開催
- パネルディスカッション**
1. 福武幸一・黒瀬啓介・中東靖恵・仙田武司・岩田和美「ウィズ／アフター・コロナ状況下での地域日本語教育について考える」2020年度第3回日本語教育学会支部集会(中国支部), 2020年10月24日, オンライン開催
- 研修・ワークショップ**
1. 「宇多津に暮らす外国人住民と「やさしい日本語」で話してみよう!」宇多津町日本語教育ボランティア・サポーター養成講座(第2回), 2020年9月26日, あみのうら交流センター2階多目的室
 2. 「多文化共生のまち岡山を目指して—「多文化共生の拠点づくり」としての公民館の役割を考える—」岡山市公民館職員研修, 2020年12月22日, 西川アイプラザ
 3. 「地域日本語教育を通じた多文化共生のまちづくり—行政を事業主体とする「総社モデル」の構築—」公益財団鳥取県国
- 際交流財団「日本語クラスのあり方検討会」, 2021年3月15日, オンライン開催
- 東野 将伸**
- 著書**
1. 西日本豪雨災害「残す。」編集チーム編著『残す。西日本豪雨災害 私たちは真備に何を残そうとしたのか』株式会社吉備人, 2021年1月(東野将伸「歴史資料とは? 岡山史料ネットのレスキュー史料とその整理・活用」21頁)
- 論文**
1. 「近世後期における一橋徳川家の「隠居所」財政—寛政一二年度財政帳簿の分析を中心に—」、『文化共生学研究』20号, 2021年3月, 71-88頁
- 研究発表**
1. 「近世日本における地域・都市間の関係をめぐる—経済・金融の観点から—」, 第5回「災害文化と地域社会形成史」研究会(科研費特別推進研究19H05457:C班研究会), 2020年5月, オンライン
 2. 【講演】「オープニングトーク」、令和2年度企画展 池田家文庫絵図展「岡山・大坂と海の道」 オープニングトーク、2020年10月、岡山シティミュージアム
 3. 【講演】「江戸時代の社会を古文書から読み解く」、令和2年度 高校生のための大学講座、2020年11月、オンライン
- その他(翻訳、事典項目、書評等)**
1. 「岡山史料ネットによる水損史料レスキュー・クリーニング作業の現状」、『LINK』12号, 2020年11月, 119-125頁
 2. 「池田家文庫絵図展「岡山・大坂と海の道」を通じて」、『階 岡山大学附属図書館報』72号, 2021年2月, 5-8頁

藤井 和佐

著書

1. 神崎宣武監修・総社観光プロジェクト実行委員会編『総社観光大学』吉備人出版、2021年1月、総204頁(藤井和佐、「文化を活かした地域づくり」158-179頁)
2. 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編『最新 社会福祉士養成講座・精神保健福祉士養成講座 3 社会学と社会システム』中央法規出版、2021年2月、総241頁(藤井和佐、「地域」88-103頁)

研究発表

1. 「日本農村社会の行方——趣旨・論点」、日本村落研究学会第68回大会テーマセッション「日本農村社会の行方」(テーマセッションコーディネーター・座長・解題者)、2020年11月22日、オンライン開催

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 小内純子・地域の「壁」研究会編著・発行、『2019年度質問紙調査「北海道における農業委員・農地利用最適化推進委員の現状と制度的課題に関するアンケート」集計結果報告』(藤井和佐研究代表、2018年度-2021年度科学研究費補助金(基盤研究(B))(課題番号18H03465)「女性農林漁業者の社会参画をめぐる地域の『壁』に関する経験的研究」研究成果報告書第1輯)、2020年9月、総43頁(藤井和佐、「はしがき」1-2頁)
2. 姫野宏輔・藤井和佐編著、『北木島——2020年度フィールドワーク報告書』岡山大学文学部人文学科社会学領域、2021年2月、総71頁
3. 一般社団法人全国農業協同組合中央会石堂真弘編・発行『月刊JA』2021年2月号

(792号)、2021年2月(藤井和佐、コラム『『男女共同参画』が大事な理由 社会を変えるのは、あなたです』11頁)

本田 晃子

論文

1. 「ソ連団地の憂鬱」、『ゲンロン11』、2020年9月、248-262頁
2. 「革命と住宅 第1回 ドム・コムーナ——社会主義的住まいの実験(前篇)」、『ゲンロンβ』57号、2021年1月、電子媒体のため頁数無
3. 「革命と住宅 第2回 ドム・コムーナ——社会主義的住まいの実験(後篇)」、『ゲンロンβ』58号、2021年2月、電子媒体のため頁数無

研究発表

1. 「革命と住宅——ソ連映画における住宅表象の分析」北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、2020年12月23日、オンライン

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 「書評「生活の総合的構成」河村彩『ロシア構成主義:生活と造形の組織学』」、『表象』14号、2020年4月、176-179頁

松岡 弘之

論文

1. 「仕事に役立つ公文書—尼崎市におけるアーカイブズの組織内利用をめぐる」『記録と史料』31巻、2021年3月、43-54頁

研究発表

1. 澤谷晃子・堀井洋・外丸須美乃・西尾真由子・堀井美里・阿児雄之・武田英明・松岡弘之「みんなで育てる「継承型学

- 術オープンデータ」の可能性と展望：大阪市立図書館デジタルアーカイブオープンデータを活用した“オープンデータ巡るよプロジェクト「Me-Glue-You」”の紹介」、デジタルアーカイブ学会第4回研究大会、2020年4月25日、オンライン
2. 「災害資料の保存について—公文書を中心に—」、学術野営2020 in 奥州市、2020年7月11日、オンライン
 3. 「大森報告・廣川報告へのリプライ」、大阪歴史科学協議会11月例会、2020年11月8日、オンライン
 4. 「近代日本のハンセン病療養所における「自治」とその射程」、日本保健医療社会学会2020年度第1回関西定例研究会、2021年2月27日、オンライン
 5. 「婦長殉職碑とその周辺—ハンセン病医療従事者の顕彰をめぐる—」、岡山地方史研究会2月例会、2021年2月28日、岡山県生涯学習センター
3. 「論点 国家とアナキズム」『群像』75巻8号、2020年8月、306-311頁
その他（翻訳、事典項目、書評等）
 1. 「ぶんかのミカタ アナキズム再考(上)」毎日新聞、2021年1月16日
 2. 「今年の収穫 人文科学：現代の闇をあぶりだす」神戸新聞、2020年12月20日ほか
 3. 「解題 D.グレーバー「根本的他性、あるいは「現実」について」『思想』1158号、2020年10月、7-8頁
 4. 「一日一題」山陽新聞、2020年8月～9月週1回、計7回連載
 5. 「考「新型コロナ」の社会 危機が増やす選択肢」熊本日日新聞、2020年5月8日
 6. 「人類学者のレンズ」西日本新聞、2020年4月～月1回連載
 7. 「旋回する人類学」『群像』76巻3号、2021年3月～月1回連載

光本 順

論文

1. Mitsumoto, Jun. How can museum studies meet the practice of archaeological institutions in Japan? *ICMAH Annual Conference 2019 in Kyoto, Japan "Reconsidering Museums Versus Contemporary Archaeology"*, 2021, pp. 53-56.
2. Mitsumoto, Jun. LiDAR Mapping of the Tsukuriyama Kofun Group: Research History of Three-Dimensional Surveys. In N. Matsumoto, S. Sugiyama, and C. Garcia-Des Lauriers (eds.), *Proceedings of an International Conference in Mexico, February 27-28, 2020: Landscape, Monuments, Arts, and*

松村圭一郎

著書

1. 石井美保・岩城卓二・田中祐理子・藤原辰史編『環世界の人文 生と創造の探究』人文書院、2021年3月、478頁（松村圭一郎「あらたな環世界をひらく—そして人類学者は腹を下す」、175-191頁）

論文

1. 「欠如としての映像、過剰としての言葉—人類学における映像表現を考える」、『人文学報』517巻2号（社会人類学分野14）、2021年3月、1-9頁
2. 「国家なき社会のリーダー考—はじめてのアナキズム2」『ちゃぶ台』Vol.6、2020年11月、175-186頁

Rituals Out of Eurasia in Bio-Cultural Perspectives, Research Institute for the Dynamics of Civilizations, Okayama University, 2021, pp. 45-51.

研究発表

1. 「古墳のLiDAR測量」、第3回文理融合シンポジウム「量子ビームで歴史を探る—加速器が紡ぐ文理融合の地平—」、2020年9月26日、オンライン
2. 光本 順、ライアン・ジョセフ、山口雄治、「巨大古墳のUAV-LiDAR測量とその展望」、新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学—文明創出メカニズムの解明—」第4回全体会議、2021年1月8日、オンライン

宮崎 和人

著書

1. 井島正博編著『現代語文法概説』朝倉書店、2020年11月、171頁(宮崎和人「第4章 モダリティ」36-54頁)

論文

1. 宮崎和人「可能表現の研究をめぐる」、『国語と国文学』97巻10号、2020年10月、3-16頁

本村 昌文

論文

1. (研究ノート)近世日本における〈迷惑〉意識の諸相—『官刻孝義録』を手がかりとして—、『老年人文研究』第2号、2021年3月、21-37頁

研究発表

1. 岡崎瑞生、兵藤好美、本村昌文、日本における超高齢者に関する研究の動向、日本老年看護学会第25回学術集会(誌上開

催)、2020年6月

2. 〈迷惑〉意識とともに生きる—日本人の死生観を考える—、岡山大学大学院ヘルシステム統合科学研究科2020年度市民講演会、2021年1月24日

その他(翻訳、事典項目、書評等)

1. 「儒仏論争」、日本思想史事典編集委員会編『日本思想史事典』、丸善出版、2020年4月、394-395頁
2. 2019年の歴史学界—回顧と展望—(近世 思想・宗教担当)、『史学雑誌』129編第5号、2020年5月、135-138頁

山本 秀樹

論文

1. 「町に触れられなかった『御触書天保集成』寛政二年五月出版改革「町触」——山東京伝・蔦屋重三郎処罰の前提状況——」『近世文藝』第112号、2020年7月、41-53頁

遊佐 徹

論文

1. 「倭寇戯曲『蟾宮操』について」『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』第50号、2020年12月、39-51頁
2. 「明清倭寇戯曲目録(補)およびあらすじ」『文化共生学研究』第20巻、2021年3月、21-27頁

研究発表

1. 「病める国の住人—近代中国の身体政治と病」、2020年度文学部プロジェクト研究「病と治癒の表象と文化」、2021年1月29日、岡山大学文学部会議室

ルヌウ・ロイック

107-145頁

論文

1. Renoud, Loïc. Approches des futurs périphrastique et simple dans les manuels généralistes et pour apprenants de langue première japonaise. *Bulletin des Rencontres Pédagogiques du Kansai*, 34, 2020, pp. 21-25.

研究発表

1. Renoud, Loïc. 「Quand la compréhension est provoquée. Analyse de l'utilisation d'un matériel pour les futurs périphrastique et simple」、日本フランス語教育学会・研究集会、2020年10月31日、オンライン
2. Renoud, Loïc. 「Matériel pour la temporalité verbale : présentation et utilisation.」、フランス語教授法研究会第3回、2020年12月13日、オンライン

シンポジウム司会

1. Renoud, Loïc. 「Vivre la didactique du plurilinguisme en 2021, s'agit-il d'une conception idéalisée? (Elli Suzuki)」、第35回関西フランス語教育研究会、2021年3月27日、オンライン

和田 郁子

研究発表

1. 「インド産鯨皮と近世日本 ―文化的観点からみた遠隔地交易」、白眉セミナー（京都大学）、2021年3月9日、オンライン
その他（翻訳、事典項目、書評等）
1. 真下裕之監修（二宮文子・真下裕之・和田郁子訳注）「アブル・ファズル著『アーイーニ・アクバリー』訳注(9)」『紀要』（神戸大学文学部）第48号、2021年3月、